

2014年（平成26年） 6月 689号

カトリック学校教育を考える

アダム・クジャク

私は今年度に入ってから戸部教会と四日市の学校を週に半分ずつ往復して過ごしています。皆さまもご存じのようにカトリック学校を存続させることが、大変な時代になっています。先日もカトリック学校の校長・理事長会議の中で、「今やカトリック学校は信者を作るためのものではない・・・カトリック学校から宗教色をとってしまわなければ経営は難しいなど」の意見が出て、私はそれを聞いて自分の耳を疑いました。カトリック学校から宗教を無くして何があるのでしょうか。カトリック学校というのは言葉の飾りものではありません。

ドイツの物理学者で、ノーベル賞を受賞しているマックス・プランクは、「科学と宗教は対照的なものではありません。真剣に考える全ての人の心を完成するために、お互いを必要とします。」と言っています。

アンペアを発見したアンペールは、「神の存在の最も説得力のある証拠の一つは、宇宙の驚くべき秩序と調和であります。」と言っています。

狂犬病のワクチンを発見したパスツールは、「少しだけの知識は神から離れます。多くの知識は神に戻ってきます。」と言っています。

科学者、物理学者、生物学者たちもカトリック信者が多かったです。彼らが研究すればするほど神の存在を認め、その原動力は創造主の自然の法則の素晴らしさをもっと理解したいという願いからきています。

四日市のエスコラピオス学園は、カラサンスの青少年の教育理念をいかし、本当の教養を身につけ、教育レベルを上げることをめざしています。

前にも書いたことがあります。エスコラピオスの学校で学び、世界の様々な分野で貢献した卒業生がいます。日本でも有名な人々にはゴヤ、メンデル、モーツァルト、シューベルト、ハイドン、ガウディー等、このように自分に与えられた才能を人びとのために活かしているのは、カラサンスの教育の精神が開花されたものではないでしょうか。

初等教育の創始者である聖ヨセフ・カラサンスは、「神は真理である」という真理を深く理解するために、物理的なモチベーションではなく、神の法則で素晴らしさを表すという心理的動機でした。『教育は人間を包括的な開発に導く手段で、個人的かつ社会的、そして精神的、宗教的な開発の役割と重要性を含まれていること』を唱えています。そしてカラサンスは貧しい子どもたちに、無料で教育を受けられる学校を開くためにエスコラピオス会を創立しました。現在学校の教育的使命は、人間の完成を目指して、生徒たちが真実を愛し、神の国

を地上に建てる協力者として、信仰を生活で表すことができれば、そのとき学校がカラサンス性を保つことになります。私はこのような信念を持って、学校教育に携わっています。

戸部教会の皆さまにとって、遠く離れた四日市のエスコラピオス学園 海星中学・高等学校ですが、カラサンスの精神が活かされた学校として現代社会の青少年が育成されていくよう、祈りで支えて戴きたいと願います。